

新熊 清教授のご退職にあたって

外国語学部長 石 川 輝 海

新熊先生は43年もの長きにわたり、本学の、とりわけ外国語学部の礎を築き、その発展にご尽力をされて来られました。誠にありがとうございます。先生のにこやかな笑顔が日常的にキャンパスで見られなくなるのは、大変に寂しいことですが、今後も機会あるごとに、是非、顔を見せていただけますようお願い致します。

さて、新熊清先生は、同志社大学文学部英文学科をご卒業後、同志社大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程を修了され、1969年4月に本学経済学部助手として就任されました。その後、1971年講師、1975年助教授、1981年教授となりました。この間に、立正大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程で単位を取得されています。1995年6月に The University of Toledo, (Ohio, USA) において Ph. D. を、1996年3月に立正大学で博士（文学）の学位を取得されました。

1985年外国語学部増設実行委員、1987年外国語学部開設準備委員と、外国語学部の設立に多大なご尽力をされました。1989年4月外国語学部設置により、外国語学部英米語学科教授に異動され、1997年4月大学院外国語学研究科英語学専攻、2001年4月大学院通信教育課程外国語学研究科英語学専攻（修士課程）、2008年4月同（博士課程）の教授に就任されました。

その間、学生部長、大学評議員、大学協議員、就職部長、図書館長、学術情報センター長、外国語学部長の要職を歴任されました。また、学校法人では2008年8月より常任理事（財務担当）に就任されました。さらに、名古屋学院大学50周年史編纂委員長を務めておられます。

研究面では2002年より日本バーナード・ショー協会会長を務められ、その他、日本英文学会会員（中部支部理事）、サイコアナリティカル英文学会会員（常任理事）、国際異文化学会会員（理事）としても活動されておられます。主たる研究分野は英文学、比較文学、語源学です。英文学では「バーナード・ショーを中心とするイギリス近代劇」、比較文学では「翻訳と日本文の成立」、語源学では「英米を中心とする諸外国の国名・地域名・都市名の語源」を研究テーマとされています。

新熊先生は、主な著書の『バーナード・ショー研究—演劇論—』、『イギリスの演劇—宗教と文化を交えて語る—』、『翻訳文学のあゆみ』、*The Relationship between Japanese Translations of English Literature and the Creation of Modern Japanese Literature* など合計17冊の単著を上梓され、加えてバーナード・ショーに関する57編の学術論文を発表されています。

教育面では「日英翻訳論」、「ヨーロッパの文学」、「英米文学講義」、「英文学史」、「英米文化入門」など多岐にわたる科目を担当されました。大学院においては「英米文学研究」、「イギリス文学研究」を担当され、「英米文学論文演習」の指導に当たられました。名古屋学院大学にご就任以来、

経済学部および外国語学部から多数の優秀なゼミ生を世に輩出されております。

新熊先生がバーナード・ショー研究を始められたきっかけは、大学の恩師から下層階級の社会悪としての貧困と富裕階級の偽善的経済活動を扱ったショーの戯曲を読むことを勧められたことです。この作品によって文学と社会との間の深い関係に衝撃的に目覚め、特にショーの反戦思想に強く心を惹かれ、ご自身の研究対象とされました。その後、立正大学でバーナード・ショー研究の第一人者でありました市川又彦教授のもとで研鑽を積まれました。その師のもとで日本バーナード・ショー協会の設立にも関わられ、協会の運営では幹事を始めとして会長職も務められました。会長在任時にはショー誕生150周年・ショー協会創立35周年を記念する『バーナード・ショーへのいざない』の出版に尽力されました。協会の仕事をする中で、研究者としての心構えと研究の手法、および学会の果たすべき役割について学ばせてもらった、と新熊先生からお伺いしたことがございます。

退職後の現在も研究の意欲は衰えることなく、世界各国の国名と地名の語源についての著書の執筆と、ショーの喜劇作品を集めた『ショー名作集』(4巻)の出版に向け翻訳に励んでおられると、伝え聞いております。

新熊先生は何よりも「和」の精神を尊ばれていました。どのレベルの会議においても真剣な論議が行われるときには「緊張」の空気がみなぎります。学部教授会も全学委員会においてもしかりです。対立意見が激しく火花を散らすとき、新熊教授は、常にどちらの側にも就かず、またどちらの意見をも尊重しながら、両者がまとまるような観点から発言されました。そのおかげで何度も学部のみならず本学は救われてきました。

先生は持ち前の話術で人を惹きつけられました。ショーのみならず、英文学全般から語源まで、深い造詣から繰り出される話は聴衆の心を捕えて放しません。栄サテライトや日比野学舎、カルチャーセンターなどでの講演では、先生の話術に魅せられて足繁く通われる方が多数出ました。あの「河内弁」とユーモアに富んだ余談を織り交ぜながら、聴衆の方々と作り出される「新熊ワールド」は、人生とは何かという哲学をひとりひとりに語りかけるステージだと言えるのではないのでしょうか。

新熊先生、いつまでもお元気で、あのお健やかな笑顔、あの河内弁とともに、先生がずっと探求されておりますバーナード・ショーの魅力を世界に発信し続けてください。また、今後も、先生がいままで牽引して来られました外国語学部に対して、大所高所からご指導ご鞭撻を頂戴できれば幸甚に存じます。いつまでも楽しく、心豊かに、ご退職後の人生を送られますことを心から願って止みません。

長い間、本当にありがとうございました。